



新入会員セミナー開催

国際ロータリー第2510地区

地区代表幹事

河口 義憲

(札幌西RC)

4月22、23日の2日間にわたり、由仁町文化会館で始まり、夕方からは温泉宿ユニの湯に場所を変え、石丸ガバナー年度の新入会員セミナーが行われました。

第2510地区の新人会員からは29名、実行委員側は12名で、計41名が由仁町に集まり、濃厚な時間を過ごしました。このセミナーは、入会3年未満の会員に、例会中心の通常のロータリーから一歩進んでロータリーの可能性を見つめ、会員同士のふれあいを通し、今後のロータリー生活を楽しくしてもらう一助になることを期待するものです。

過去3年間の新型コロナの影響もあり、入会歴3年を超えている方も2名、女性参加者2名、年齢も34歳から70歳までの幅広い年齢層の会員でした。講師陣は石丸ガバナーをはじめ嵯峨地区研修リーダー（PG）、小山PG、福井PG、松浦GE、玉井GNDが揃いました。

実行委員として由仁RCから大坂直人、岩見沢RCから西方洋昭、齋藤聡、栗山RCから松下早苗の各役員と札幌西RCより河口義憲、下村卓也の実行委員が参加しました。22日は講師陣による、共通基盤となるロータリーの歴史のあれこれから始まり、石丸ガバナーから地区の現状とロータリーへの想いが話されました。



その後参加者は、ほぼ年齢別の4つのグループに分かれ、自己紹介後、グループ内で「自分のクラブでやってみたい活動」をテーマに話し合いがスタートしました。



議論は長丁場で、夕方からはユニの湯に場所を変えましたが、ここはHOKKAIDO LOVEが有効！入浴後、会食を挟んで夜遅くまで翌日の発表のため、というより純粹に酒を楽しみ？会は続きました。

翌日は8時から議論再開で、最後はグループごとの発表会となりました。初日の全くお互いが知らない間柄から、議論が続くにつれ関係が深まり、発表時には互いにプロジェクトチームメンバーと認め合い、変わってゆく姿が、今後のロータリーライフの原動力になってゆく将来を彷彿とさせました。



ほぼ年齢別の4グループですが、2日間の討論をまとめ、最後に発表の際には、世代間の特徴が見事に出ていました。お互いの意見を尊重しあい、議論を戦わせ、まとまらなくても前へ進む若い世代と、共通項を見出しまとめてゆこう、あるいはその方策を具体的に考えてゆこうとする熟年世代とのギャップが対照的でした。

その多様性が大切な事とも再確認し、最後に研修カウンセラーから、2日間のセミナーの感想がありました。どの講評も好意に満ちたもので、今後のロータリアンへの期待、想いがみなぎっていました。集合写真を取る前に、石丸ガバナーからひとり一人にセミナー修了証を手渡されたその顔には、銘々に達成感がみなぎっていました。実質2日足らずのセミナーでしたが皆様お疲れ様でした。参加されました皆様の、今後のロータリーライフが充実されることを祈念しております。お昼には解散となりました。

